

# 非稼働病床の現況について【大阪市二次医療圏・病院】

資料 5 - 4

※過去1年間病床が全て稼働していない病棟を有する病院  
(非稼働病棟等という)

【南部】

	医療機関名	所在区	非稼働病棟等の状況			計画		
			病床数	非稼働病棟等になった時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	大阪公立大学 医学部附属病院	阿倍野	48床	令和 4年度	その他  ※コロナ禍前より、令和4（2022）年度初めの本格稼働を目指して一般病棟の臓器別センター化に伴う病棟整備を進めていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、感染拡大状況に合わせた速やかな患者受入体制を確保する必要が生じ、休棟の状態一旦病棟再編を中断せざるを得なくなったため。	再稼働	令和5年度 中	【具体的対応方針】 新型コロナウイルスの5類移行を受け、病棟再編を再開しており、令和5年11月に病棟を再稼働する見込み。 病棟再稼働に向け、令和5年度の看護師採用数を大幅に増やし、令和5年11月の病棟再稼働に向け、現在トレーニングを行っている。
2	社会医療法人杏樹会 杏林記念病院	西成	41床	令和 4年度	その他  ※当院で新型コロナウイルスのクラスターが発生したとき、現、公立大学附属病院感染制御部からコンサルを受けた。その時の経験から、コロナ禍という社会情勢の中で、大阪府の要請に答える形で、2床から始まり、最大23床を設けた。5Fと3Fの2病棟をコロナ専用病棟として、陰圧器を設置、コロナ患者受け入れ病床を確保。感染病床に専任の職員を配置した。その結果、一般病床の稼働制限をせざるを得ない状況と、専任の看護要員の離職が続き人員不足となり、やむなく、許可病床120床のところ、令和4年12月16日1病棟59床とした。	再稼働	令和6年度 中	【具体的対応方針】 当院においては、新型コロナウイルス感染症患者様を受け入れている病床を有している事で、新規看護職員の採用に苦戦しているのが現状。このような状況だが、今後の感染拡大状況を見据えながら、看護要員の確保に努めてまいる所存である。 具体的には、従来のハローワークや人材紹介会社を利用することに加え、自院のHPを充実させ、情報発信することで働く環境を知ってもらい採用につなげるよう準備をしている。また、外部の求人採用サイトの利用や、看護学校への挨拶等も積極的に進めることを計画している。この様な取組みをすることで、令和5年度中には、5名～10名、令和6年度中には10名～20名の看護要員を採用し、非稼働病床の稼働の実現に向けて努めてまいる。

## 非稼働病床の現況について【大阪市二次医療圏・診療所】

※過去1年間病床が全て稼働していない有床診療所  
(非稼働病棟等という)

【南部】

	医療機関名	所在区	非稼働病棟等の状況			計画		
			病床数	非稼働病棟等になった時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	医療法人中島クリニック	住之江	5床	平成6年度	医療従事者が不足しているため 経営上の問題 その他 ※スタッフが確保できない。 設備の老朽化	再稼働	未定	【具体的対応方針】 院長には再稼働したいというお気持ちはあるようですが、スタッフ確保の面や、経営上、設備等に不足の面が多く、全体的には計画はありません。
2	権藤診療所	住吉	2床	平成15年度	医療従事者が不足しているため ※もともと、外科産科系で入院を受け入れていたが、医師が現在おらず標ぼうもしていないため。	その他		削減も含めて検討中
3	医療法人五常会 浅野クリニック	西成	10床	平成29年度	医療従事者が不足しているため 入院患者（分娩）の受入れを制限（中止）したため 経営上の問題 ※医療安全上の問題や担当医師の欠員の為、分娩ができなくなった。 ※病床の再稼働には医師・看護師等、医療従事者の確保が必要であり経営上の問題により、現状増員が困難である。	その他		【具体的対応方針】 経営状況を勘案しながら、再稼働を検討する。
4	猪木産婦人科	西成	1床	平成18年度	指定医療機関の認定要件を確保するため ※母体保護法指定のため。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用どおりとし、他の目的で使用しない。		